

公民館報

おがわ

小川村ふるさと通信

No. 225
(2021 年夏号)



瀬戸川神社で撮影中、ゲストが登場。神様に感謝。

(写真 松本博充)

- サークル紹介
- 小川に生きる
- 分館紹介 - 北尾分館 -
- 小川の陶芸家
- ここに生まれた
- 図書だより
- 令和3年度社会教育・公民館関係役員



サークル紹介（参加してみました！）

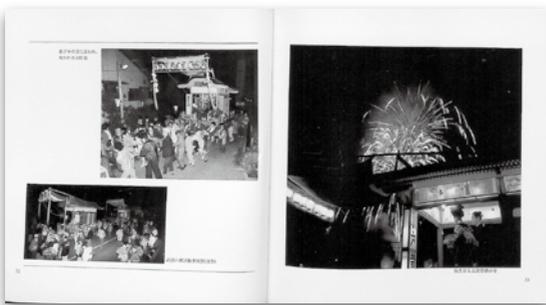
写友会



今回は「小川写友会」さんにお邪魔させていただきました。やまびこフォーラムをきっかけに『趣味を持って楽しもう』というコンセプトのもと、平成八年に二十四名（現在は九名）で発会したそうです。写友会メンバーの作品は、文化協会の展示会や以前の公民館報の表紙に提供していただいたり、村のパンフレットも撮影されていたので知らず知らずのうちに目にされていると思います。

発会時は講師をお招きして基礎から教えていただいたそうです。当時はフィルムカメラで今はデジカメになりましたが、カメラを構える時の気持ちは変わらず

『自分が何を表現しようとするのか、その表現を分かってもらえるのか』



『見た人が何かを感じとってくれるのか』

『後世に伝えるものを残したい』

『言葉は嘘もつけるけれど、写真は嘘をつかない』

本当の桜や空の色、親子の愛情等、常にその一瞬を撮りたいそうです。その時は納得がいかない一枚も久しぶりに見返すとなかなかいいな、と思うこともあるそうです。

シーズン毎に例会を行い、撮影会は年に二回程開催。後は日々個人で腕を磨き、写真展や新聞雑誌等で他者の作品を見て勉強もするそうです。

今後写真会では、村内で大雨の時などに幻のように現われる滝が幾つもあるので、村の貴重な資料としてそれらの滝を後世に残すため記録をしたり、また村と協力して歩道を整備し名所になればと思案中で、その際、ドローンを使って上空からのダイナミックな撮影を試みたいそうです。

また、会の三十周年には記念の写真集発行や展示会の開催を計画されるそうです。楽しみですね。

会員も随時募集中で、撮り方のコツも伝授してもらえますよ。詳しくは公民館まで。



稗ノ久保の滝



赤萩の滝



遠藤崎の滝



木落し場の滝





廣田 晃里さん
(高府町中尾)

3年前に地域おこし協力隊として小川村にやってきて今年の3月まで活動していました廣田 晃里です。この間、多くの村民の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。



現在、高府町の中尾地区で「Bakery 24 seki.」というパン屋を開業準備中です。私が、協力隊として小川村を選んだ理由の一つは天文台で働いてみたかったからです。小川村に来る前は都会のパン屋に勤めていました。

しかし、採用なったものの天文の専門的知識がなく当時の村長さんの「パン屋で働いていた経験があるなら、小川にはパン屋がないからパン屋をやってみれば」という一言で、協力隊としてパン作り講習会を開催するなどパン屋開業を見据え活動してきました。

そして活動を通して小川村民の優しさや温かさを身近に感じながら、18歳で故郷岐阜を出て都会で約20年間過

ごしてきた私にとって生まれ育った飛騨と似た環境で居心地が良い小川村に目標だったパン屋をようやく開ける運びになりました。この文章が皆さんに読まれる頃には、無事開店している……はずです。

店名は、暦を表す「二十四節気」が由来となっていて、二十四節気とは四季をさらに細かく分けたもので、立春や夏至といった身近なものから白露や穀雨といった聞き慣れないものまで、全部で二十四あります。自然豊かなこの小川村で、季節を感じながら暮らしたい。そして、そんな暮らしに寄り添うようなパンを作りたい、そんな想いからこの言葉を店名にしました。

昨年の9月に物件をお借りして、およそひと月は用品の処分に追われました。今ではようやく綺麗になった店舗も、当初は、多くの荷物や不用品の散乱する古民家でしたが、大家さんのご厚意で自由に改装をさせてもらえる事になりましたが、当初はどこから手をつけていい

か途方に暮れるばかりでした。

作業風景



悪戦苦闘の毎日で、敷地内に住宅と店舗となる古民家があり、ひと月で

整理出来たのは住宅部分だけでその両方を片付けるのには結局半年以上かかりました。

改修作業は基本的に自分で行い、実家が電気工事の会社を営

んでいるのでなんとなく現場の様子は知っていました。が、実際に家の改修するのは初めてです。一人では無理な部分は、近所の方や村の職人さん、友人達に手伝ってもらいながら作業を進めてきました。古い壁を壊したり、傷んだ床を張り直したり、漆喰を塗ったり、クロスを貼ったりと素人ながら様々な作業を経験しました。改修を始めてから、必要な道具や材料を調べてはホームセンター



もう少しで完成

に通う日々が何か月も続きました。やがて僅かな資金はあつという間に底をつく事になります。

改修費用を捻出するため、クラウドファンディングにも挑戦しました。村内でお世話になってる方からも多くのご支援を頂き、この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。またこのクラウドファン



このオーブンが大活躍します

ディングをきっかけに、県外の方からも多くのご支援とご連絡を頂きました。新聞やテレビ、ラジオといったマスコミからも取材の依頼が相次ぎ、日々の励みとなっています。開店後にはご支援頂いた方へのリターンの発送を順次行っていますので、もうしばらくお待ちください。

最後になりましたが、当店のパンは国産小麦と天然酵母を使用した安心なパンです。食パンを中心に、地元の食材を使ったパンも作りたいと考えています。おすすめの小川村にパン屋が欲しい、との声をたくさん聞きました。長野市までは買いに行けない方でも、村内なら行ってみたいと楽しみに待っている方もいらっしゃいます。近隣地域に暮らしている方がいつでも気軽に買えるような、笑顔と会話がある「下町のパン屋」のように愛されるパン屋なれたらと思っています。お近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください。お待ちしております。



美味しいパンをみなさんへ



お店のロゴ

館介 分紹

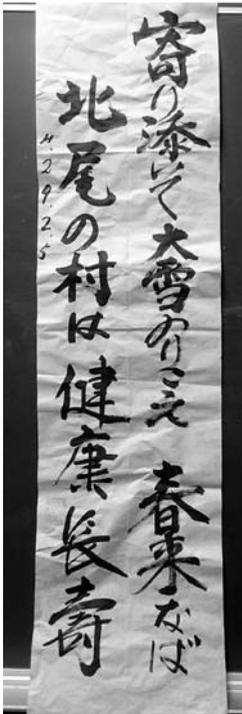
北尾分館

無理せず、たっしやでいこう

北尾分館は、上組・下組と二つの組で構成する小さな分館です。

近年は、世帯数・区民数も減少し、分館活動もひと昔のように活動が出来ないのが現状です。かれこれ37年前位、私はまだ小学生だった時代は本館事業の他、各分館事業（イベント）の量も多く活気に満ちていたことが思い出されます。

少子高齢化が進み世帯数が減っている中ではありま



すが活動内容を大幅に減少し、できる事を「無理せず、たっしやで（元気で）やろう」を念頭に活動しています。

昨年度、今年度初旬は新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で分館活動も自粛しています。一日も早く終息し、色々な活動が通常に再開できる事を願っております。

このような中、分館活動は何も実施できてはいませんが、当分館の恒例となっております主な行事を紹介します。

5月には、区民研修睦陸旅行を実施しています。近年では、ご高齢者の身体の負担を第一に考え研修場所を一ヶ所とし、後は温泉旅館で美味しいご

研修旅行



馳走とお酒、温泉につかりながらゆっくりと一日を過ごす内容としています。

研修先での一コマ劇場。主事「ここでの時間はたっぷりありますので、ゆっくりご覧してきて下さい。」・・・。30分後。主事「えっ、皆さんお早いお帰りで、、、。」御先輩方「早く風呂入って、一杯やらあゝず」。主事「はいっ。旅館に連絡してみます。」



豪華で美味しい食事を載いて

美味しいご馳走も食

べ、美味しいお酒も飲み、和やかな親睦も深まり帰りの帰路時、小腹が空いたか、お夕飯かは定かではないのですが、旅の最後はやっぱり「蕎麦でメる」です。胃袋と肝臓だけは「まめつたい」北尾区民です。

6月、9月には、北尾区一斉の環境整備事業を

実施しています。以前分館事業及びゲートボール等で使用していた北尾グラウンドの草刈り、整備。グラウンド整備終了後各上組、下組に分かれ地区沿道の整備及び公民館等の清掃に一日掛かりで景観整備に取り組み、区民で協力し団結力で活動しています。終了後には、水分補給をしながら、昔話も踏まえて一日の労をねぎらいます。

2月には、区内の保健補導員の方々との協賛による保健師さんの健康講演及び外部講師の先生をお招きし、それぞれ日頃の日常に欠かせない事を学習させて頂き、色々大切なことを再認識させて頂きました。学習会終了後の懇親会では、特に「は百薬の長」について、先輩方々の皆さんと親身に話します。

主だった活動を紹介させていただきました。軒数、区民数が少ない中での活動ですが、無理せず皆様と協力をしあつて今後も分館活動に取り組んでまいります。



北尾分館主事
松本 武志さん
(自称：万年主事)

特集 小川の陶芸家

小川村で長年活躍する3名の陶芸家。ふるさとらんど小川でも、5月から6月にかけて展示会が行われ、多くの人が素晴らしい作品の展示を楽しんでいます。

さて、同じ陶芸といってもそれぞれの作風は異なります。作品作りのこだわりや特徴、陶芸に対する思い、そして今後についてお話を伺いました。

きただ
北田 耕治さん (下市場・ひぐらし窯)



ガス窯内

県内でも群を抜く大きさのガス窯を構えた「ひぐらし窯」。窯主である北田さんは現在ふるさとらんどで館長

を務められています。大学を卒業後、長野市内の高校で英語教師として13年間勤務。顧問を務めた学校のクラブ活動の一環で始めた陶芸にのめり込み、しばらくは趣味として作品を制作していたそうです。そして退職後、美濃焼で有名な岐阜県多治見にある陶芸学校で一年間学び、ひぐらし窯を築きました。工芸展で賞を受賞したり、県内だけでなく東京でも個展を開催したりと、その名は全国に知れ渡っています。通例行事としては、北田さんが所属する長野県陶芸協会による作品展が毎年伊那市で開催されており、プロの陶芸家の方々による作品が数多く出展されているそうです。

北田さんの代表的な作品の一つに「カラマツ紋」の花器や扁壺（へんこ）があります。和紙を切り抜き粘土に貼り付け、鉄分の少ない白い土をかけてから和紙をはがし焼くのだそう。小さい作品になると和紙の切り抜きも細かく大変になるといいますが、丁寧な仕事によってより





趣深い風景画が写し出され、ずっと眺めていたくなります。

また、北田さんは「黄瀬戸（きぜと）」や「織部（おりべ）」といった美濃焼のやきものに力を入れており、特に焼物の中でも最も難しいとされる黄瀬戸が一番苦労したそうです。鮮やかな黄色はまさに試行錯誤の賜物、柿を表現したという蓋つきの小鉢は食卓に並べたくなるような可愛らしい作品です。

織部にいたっては、北田さん最大のこだわりである釉薬（「ゆうやく、うわぐすり」）の調査が、いかに美しく光沢のある緑を出せるかどうかの要となります。釉薬とは、陶磁器の表面を覆っているガラス質の部分のことで、木の灰や石の粉などを調合して作ります。素焼きの後に釉薬を施し本焼きをすることで、釉薬が高温で溶けて、陶磁器の表面でガラス質になります。北田さんは、陶芸仲間の間でも研究者と評されるほど、熱心に釉薬を研究し続けているそうです。特に織部はお気に入りだそうです。今後も続けていきたいと話してくださいました。

川又 啓一さん（成就・成就窯）



川又さんは、一から自分で作った薪窯で作品を作っています。様々な手法で今まで沢山の作品を手掛け、薪窯だからこそ生まれる一つ一つ違った作風がとても魅力的です。そんな川又さんが陶芸を始めたのは20歳の頃。美術の教員として働き、ある時生徒を連れて小布施の陶芸家のもとへ。そこで作品作りをし、その先生から「形を作った後も沢山の工程があるからやりに来なさい。」と誘われ、2年ほどその先生のもとでお手伝いをしていたそうです。よく店番を頼まれる事もあり、その間に作品を作ってみたり…そこで陶芸の面白さが段々と分かってきたといいます。

教員を続けながら、48歳の時に二つ目の薪窯を作り始め、3年かかって完成したそうです。薪窯で焚く時は釜中の温度を上げるのに3日程、そこから温度を保ち数

日間昼夜問わず、付きつ切りで焼き上げます。その間に作品にかかる灰のかかり方や、置く場所などにより焼き上がりが全く変わるそうです。「絵を描いたりするのは違い、焚いている間、窯の中は手が届かない。薪で焚いてから焼けた時の感動を余計に感じる。」と川又さん。焼きあがった時、色々な「景色」が見られるのも大きな魅力の一つなんです。



窯制作過程の写真

そんな川又さんは、様々な材料を混ぜて自ら釉薬を作ったり、「焼き締め」という釉薬をかけずに焼き、少し光沢を抑えた手法にも取り組んでいます。今は自分が作りたいと思ったものをこれからも作っていきたくて語ってくださいました。



北田^{きただ}よしのさん（釜蓋・ギャラリー風）



取材を始める前に自作のカップにコーヒーを入れてくれた北田さん。陶芸を始めたきっかけは、「自分で作ったカップとお皿で好きなコーヒーを飲めたら良いな。」という思いからだっただけです。

北田さんの作品の特徴といえば「葉皿」です。葡萄や紫陽花、フキなど身近な自然の葉をモチーフに作られています。中でも葡萄のデザインは



様々な作品で用いられ、目を引くものがあります。初めは、ランプシェードに葉をデザインしたものを貼りつけていたのを、「貼るだけでなくお皿にも出来るのでは？」というきっかけで葉皿を作るようになったそうです。他にも、時計や洋服をイメージした作品や、アートフラワー

付きの作品などもあり、こだわりやセンスが散りばめられています。



「『これ』というものは特に決めていません。色々なものを作って楽しみたいと思っています。日常の中で普段使い出来るようなものを作り、その人がイメージするように使ってほしいですね。」と話す北田さん。ワクワクするような多様なデザインや色使いに、女性を中心に多くの人が惹きつけられています。時にはお客さんからの要望で作品を作ることもあり、自分とは違う視点に出会うことも、陶芸の魅力の一つと感じているそうです。

今では、個人のお客さんだけでなく、村内外の飲食店でも北田さんの作品が用いられるなど、多くの人を虜にしています。

―取材前、粘土を成形するところを陶芸の醍醐味であると思いついていた私たちですが、皆さんが熱を入れて話してくださったのはその次の工程、焼成（素焼き・本焼き）や施釉（釉薬をかける）についてでした。共通していたのは、「同じように成形することはできません、窯を開けて取り出すまでは、どんなものができるか分からない」ということ。出上がり想像しながら、焼き方や調合する釉薬、オリジナルのひと手間などを試行錯誤しているそうですが、実際には予想外の仕上がりになることも。それがまた味のある作品となり、新しい発見につながるといいます。そういった面白さこそが陶芸の醍醐味なのだと感じました。

容易に量産が可能な時代で、自分が作りたいものを自分で作るということにこだわり、それを発信することとは、コロナ禍による制限された生活に息苦しさを感ずる今だからこそ、より私たちの心に響くものがありました。素敵な作品をたくさん見させていただきました、また貴重なお話をありがとうございました。

ママに ありがとう



私達が小川村に移住してきて4年目。

無農薬での農業を志し、小川村にも圃場がある「まごころふれあい農園」で農業研修を受ける為に家族で小川村に住み始めました。豊かな自然と、地域の方々の優しさに、すぐに魅力的な場所だと感じた事を覚えていきます。

伸び伸びと元気に育って欲しいという想いから、長男の名前は「伸（しん）」彼が、1歳の時に小川村に住むことになったのも、何か縁があるのではないかと感じます。お陰様で、恥ずかし



感謝の気持ちを忘れずに

伊藤 悠介さん（中町団地）

がり屋で控えめだった彼も、今では保育園で大きな声を出しながら、よく元気に走り回っています。



そんな彼ですが、保育園に通うキツカケは、長女「夢彩（めい）」の妊娠です。妊娠して数カ月後。安定期に入る前の出血・破水から、母親の千世子さんが長期入院する事になりました。

私も農業研修が終わり、就農して1年目。予定はしていなかったのですが、急遽小川村保育園に通わせて頂けることになりました。彼にとっては急激な変化に、大変な事もあったと思います。

しかし保育園の先生方やお友達のおかげで、すぐに

元気に過ごしてくれるようになったようです。本当に素晴らしい先生方ばかりで、感謝しております。ありがとうございます。

また息子と二人暮らしの様子に、小川村の方々にも沢山助けて頂きました。感謝してもしきれない程です。いつか私達も、困っている誰かを助けられるようになりたいと思います！

長女の方とはというと、早期の破水から、出産可能週数まで何とか無事にお腹にいてくれて一旦は退院するまでに。しかしその後また破水が確認され、予定日より3カ月程早い、令和2年10月30日に緊急帝王切開で生まれてきました。出生体重は998gという超低出生体重児でした。出生

後はNICUで3カ月間お世話になり、今では長男を凌ぐほど大きな声で泣いています。布団をかければ、蹴り



飛ばし、泣くときは常に全力。脚力もあり、体幹も強そうで、なんとも力強く育ってくる予感です。

退院後は成長も順調で、周りの心配をよそに本人は至って元気なようで、一安心です。生まれてくるまでに、色々とありましたが、彼女は彼女らしく、素敵な夢を追いかけて、彩り豊かな人生を生きて欲しいです。

長女の妊娠・出産を通して、人の優しさに触れる事ができ感動し、当たり前前に過ごせる事の幸せを、改めて実感できるようになりました。大変だと感じる事もありませんが、きつと意味があったのだと、今では思っています。今感じている思いを大切に、過ごしていきたいと思います。



楽しいイベント
企画中です!

『夏の図書室まつり』予告 ☆ ☆

例年、大好評だった夏のイベント「夏の図書室まつり」を開催予定です。

昨年に続き、今年もコロナ禍で色々と制限がありますが、子ども達に楽しんでもらえる素敵な1日となる様に企画中です。小学生限定になりますが、ぜひ参加してください。

詳しくは後日、発行するチラシ・ポスターをご覧ください。
お楽しみに!

※今後の新型コロナウイルス感染症の状況により変更する場合があります。



図書室だより
小さな木の
実

第106号
図書委員会



▲前回のイベントの様子

ブックスタート

～生後6ヶ月の赤ちゃんへ本のプレゼント～

『子どもに読んで聞かせたい本は?』

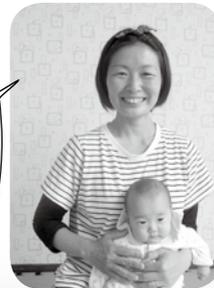
令和2年7月から
10月生まれの赤ちゃん

『しまじろうのえほん』
柏原 晃夫



こいずみ
小泉
みつぎ
光希ちゃん

『このそのイス』
香山 美子



いとろ
伊藤
めい
夢彩ちゃん

心に残った一冊の本

- ①名前（敬称略） ②子どもの時好きだった本（題名／作者）
③子どもに読んでほしい本（題名／作者） ④本にまつわる思い出ばなし



- ①小川小学校校長 永井宏樹
②『宝島』／ロバート・ルイス・ステイヴンソン
③『ギリシャ神話』

④『ギリシャ神話』は、今日の欧米文化の様々な文物に影響力を保ち続けており、例えば、オリンピックは、古代ギリシャのオリュンピア祭を近代に再現したものです。『ギリシャ神話』を知っておくと、欧米の文化的背景をより深く理解できるようになります。



- ①小川小学校教頭 小林奈美江
②『若草物語』／オルコット
③『火曜日のごちそうはヒキガエル』／ラッセル・E・エリクソン

④小学生の頃、読書が大好きでした。江戸川乱歩シリーズ、赤毛のアン、ツタンカーメンの秘密・・・時間を忘れ夢中になって読んでいました。子ども達にも本の世界でドキドキわくわくする経験をして欲しいです。



- ①小川中学校校長 山崎伸一
②『三毛猫ホームズシリーズ』／赤川次郎
③『竜馬がゆく』／司馬遼太郎

④中学・高校の頃、夢中になって読んでいたのが、三毛猫ホームズシリーズでした。高校に片道1時間かけて電車通っていたので、この時間、よく本を読んだなという記憶がよみがえり、なつかしい気持ちになりました。



- ①小川中学校教頭 小林浩一
②『火星年代記』／レイブラッドレイ
③『史記』／横山光輝

④史記は司馬遷が前漢時代に編纂した中国の歴史書です。二十四史の一つで、正史の第一に数えられています。学校の図書館には横山光輝さんの描いた漫画版が全巻揃っています。漫画であれば中国の歴史も楽しく学べます。

2021年度 社会教育・公民館関係役員

【社会教育委員会】

議長 西沢榮之助
副議長 古屋源吾
委員 花田隆夫
委員 永井宏樹
委員 山崎伸一

【分館長・主事】

夏 和分館長 松本建樹
主事 高木一仁
◎久 木分館長 久田茂男
主事 久保田正訓
高府町分館長 須賀真孝
主事 竹村広義
花 尾分館長 宮下利一
主事 中村信一
上 野分館長 伊藤一芳
主事 北村亮
○ 小根山分館長 小林安雄
主事 松峯義彦
稲丘東分館長 和田重孝
主事 大久保逸雄

稲丘西分館長 宮尾親惠
主事 柳澤孝好
成就分館長 松本秀一
主事 松本雄二
北 尾分館長 宮下治久
主事 松本武志
法 地分館長 坂口次男
主事 鷺澤伸司
瀬戸川分館長 横田吉人
主事 中村和正
古馬川分館長 伊藤繁
主事 伊藤正

【スポーツ推進委員会】

委員長 小林雅樹
副委員長 松本武志
委員 須賀真孝
委員 伊藤聖寛
委員 二瓶理佳
委員 和田博之
委員 徳武美江

【視聴覚委員会】

委員 長 川又啓一
副委員長 和田優孝
委員 和田久憲
委員 丸田勉
委員 大久保雅夫
委員 今村誠人
委員 横矢匠
委員 川又康助

【図書委員会】

委員 長 西沢郁美
副委員長 小林恵里子
委員 松林美穂
委員 坂井明日香

【館報編集委員会】

委員 長 松本博充
副委員長 笠井里奈
委員 松本治代
委員 三水恵
委員 松本真佑